

北海道コカ・コーラ
ボトリング株式会社

CSRレポート 2006



Enjoy!
Coca-Cola
Trademark Regd.



みなさまとの「対話」をとおして。

ごあいさつ

私は、企業におけるCSRを一言でいうなら、「あたりまえ」のことを「あたりまえ」に実行し、誠実な企業としてみなさまの信頼を得ることだと考えております。

そして、そのための取り組みとして、「対話」を大切にしています。

ここでいう「対話」とは、単なるコミュニケーションではなく、お互いの課題を共

有し、その解決策を話し合い、実現をともに目指すという意味が込められています。私たちは、このような取り組みの中から生活者やパートナーのみなさま、さらには地域社会や地球環境などのさまざまな課題を認識し、私たちに何ができるのか、どのようなことが期待されているのかを明確にしつつ、より高いレベルでの問題解決に繋がっていきたいと考えています。

私たちは、これまで、これからも北海道のみなさまとともに持続可能な社会を実現するために、積極的な活動を展開してまいります。このレポートをお読みいただき、当社グループの考え方や活動に対する、より多くの方々のご理解をいただき、ご意見・ご指摘などをいただければ幸いです。



取締役社長

北島義俊

[経営理念]

私たちは、知的に活性化された豊かで創発的な社会に貢献する。

[経営指針]

私たちは、

- 1 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
- 2 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献します。
- 3 変革にチャレンジし、活力ある創発的な会社をつくります。

[社員行動規準]

- ・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
- ・私たちは、生活者やパートナーとのコミュニケーションを大切にします。
- ・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
- ・私たちは、時代の変化に適応し変革を起こし続けます。
- ・私たちは、「環境に、地域に優しい」企業活動を実践します。
- ・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。

社会から信頼され 認められる企業として

当社グループでは、21世紀社会に対応するための経営理念として「知的に活性化された豊かで創発的な社会に貢献する。」を掲げています。

ここでいう「創発」とは、個々が刺激あって、全体としての新しい価値が生み出され、それが再び個々の活動を触発するというように、全体と個が相互作用を繰り返しながら、結果として個々の総和以上の価値を生み出すことを意味します。

この経営理念には、創発的企業としての使命と責任をより強く自覚し、時代の変化を見据えながら、創発的社會の進化と発展を積極的にリードしていく存在になろう、また地域になくってはならない、地域のみなさまがわくわくする企業グループを目指そうという意図が込められています。

「わくわく胸躍る楽しさ」とともに。

さわやかで健康的な
社会をめざし、
人と人をつるおす活動を
続けていきます。

私たち北海道コカ・コーラボトリング株式会社は1963年に創業し、北海道のみなさまに「さわやかさと潤い」を提供し続けてきました。

私たち北海道コカ・コーラボトリングのグループ社員のほとんどが北海道生まれ、そして

コカ・コーラ社製品には北海道産のビートや牛乳が広く使われており、北海道の経済と深く結びついています。

私たちは、コカ・コーラにかかわる全ての人に対して「わくわく

胸躍る楽しさ」とともに、さわやかで健康的な暮らしと、

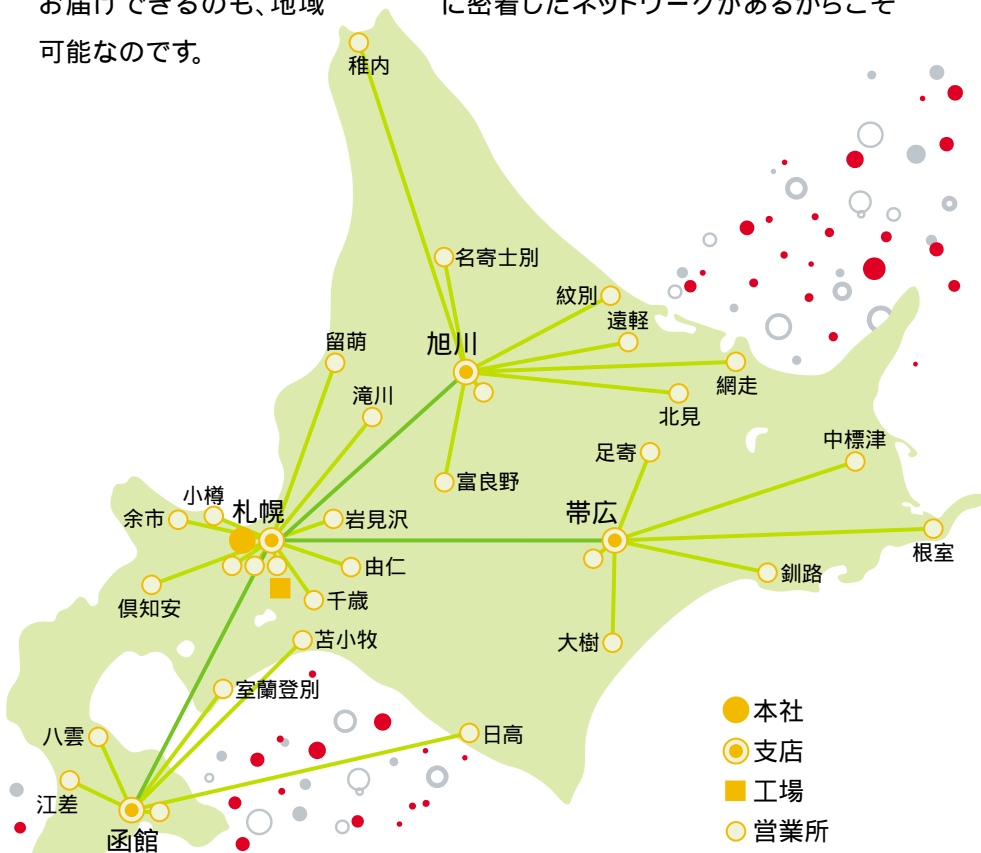
より豊かな社会を実現するため、一人ひとりが北海道の多くのお客さまとのコミュニケーションを大切にしていきます。

北の大地とともに歩んで43年、私たち北海道コカ・コーラボトリング株式会社は「人と人をつるおす Coca-Cola」という企業スローガンのもと、これからも地域から信頼され、認められる企業をめざしていきます。



さわやかさのネットワーク

北海道コカ・コーラボトリングのさわやかさのネットワークは、札幌の本社を中心に広く全道各地に拠点網を形成しています。世界でも、日本でも、そして北海道のみなさまにも、いつでも、どこでも、だれにでも、変わらない味をお届けできるのも、地域に密着したネットワークがあるからこそ可能なのです。



CONTENTS

- 01P [トップメッセージ]みなさまとの「対話」をとおして。
- 03P [プロローグ]「わくわく胸踊る楽しさ」とともに。
- 05P [最新トピックス]いま取り組みを広げています。
- 07P [ダイジェスト]活躍しています、街角の自動販売機。
- 09P [お客さまの満足]お客さまに安全・安心をお届けするために。
- 11P 「わくわく」を、もっと身近に感じてほしい。
- 13P お客さまにさわやかさとご満足をお届けするために。
- 15P [社員との対話]風通しが良く達成感のある職場を創造します。
- 17P [企業スタンス]企業としての信頼性を高めるために。
- 19P [地域社会への貢献]地域社会を活性化する多彩な活動を応援しています。
- 22P 地域の環境活動に参加しています。
- 23P [地球環境への取り組み]地球環境の明日を見つめて。
- 25P 生産からリサイクルまでの流れ
[事業プロセスごとの環境負荷]
- 27P リサイクルによる環境保全活動
- 29P 北海道のきれいな空気と水を求めて。
- 31P 効果的な環境保全活動を継続しています。
[環境会計2005]
- 33P [エピソード]北海道コカ・コーラボトリングのプロフィールです。

いまも取り組みを広げています。

「子どもの安全を見守る運動」を北海道とともに推進します。

子どもたちが狙われ被害を受ける犯罪が激増している昨今、子どもたちの安全に対する大人の注意を喚起するとともに、事件事故等の目撃時や助けを求められた場合の通報・一時保護を行う道民運動として、「北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議（会長：高橋はるみ北海道知事）」が新たに取り組む『みんなで守ろう子どもたち「子どもの安全を見守る運動」』に当社グループとして参加し、全道の事業所と車両（約1,200台）にポスターやステッカーを掲示して、北海道とともに運動を推進しています。この取り組みは、北海道が2006年度赤レンガチャレンジ事業として推進する「民間企業等とのタイアップ事業」に選定され、当社が企画したポスター（10,000枚）及び車両ステッカー（11,000枚）を同推進会議に寄付したものです。



高橋はるみ北海道知事へポスター・ステッカーを寄付



啓発ポスター



当社グループが参加した北海道庁での出発式

子どもたちの安全から感動体験、そして自然遺産まで。
このページでは本レポートの対象期間をこえて、2006年の最新の話題をお届けします。



サッカーW杯にジュニア親善大使を派遣しました。

今年のサッカーW杯ドイツ大会に向け、日本コカ・コーラ(株)では中学生を対象とした「ジュニア親善大使」を任命し、オフィシャルパートナー契約を結んでいる日本代表の中田英寿選手から任命状が手渡されました。北海道からも2名の中学生が選出され、対ブラジル戦の開始前に国旗をもってピッチに入場する「フラッグベアラー」として活躍しました。





人と人をうるおす

Coca-Cola



車両ステッカー

「災害時における救援物資 提供に関する協定」を結びました。

釧路市および恵庭市との間で、「災害時における救援物資提供に関する協定」を締結しました。この協定に基づき、災害時には行政からの要請により、当社の在庫飲料水を提供するとともに、公共施設等に災害対応型自動販売機を設置しました。引続き、他自治体との協定締結を推進していきます。



釧路市との協定調印式

世界自然遺産 「知床」デザイン缶を限定発売!

売上金の一部を寄付、斜里町の環境保全活動に協賛

1993年の発売以来、多くの人びとに親しまれているロングセラー製品「ジョージアサントスプレミアム」。世界自然遺産に登録された「知床」をパッケージデザインした製品を新たに北海道地区限定で発売しました。北海道へ観光に訪れたみなさまに「知床」の雄大な自然をアピールします。また、斜里町と知床自然遺産地域の環境保全活動の推進に関する協定を締結し、斜里町内に設置した当社自動販売機の売上金の一部を寄付しています。



斜里町との協定調印式



世界遺産「知床」デザイン缶

活躍しています、街角の自動販売機。

北海道では、私たちの
自動販売機約65,000台が活躍しています。
道内のシエア・ナンバーワンだからこそ
私たちは地域にもっとお役に立つ自動販売機で
ありたいと考えています。



観光マップを 掲示しています。

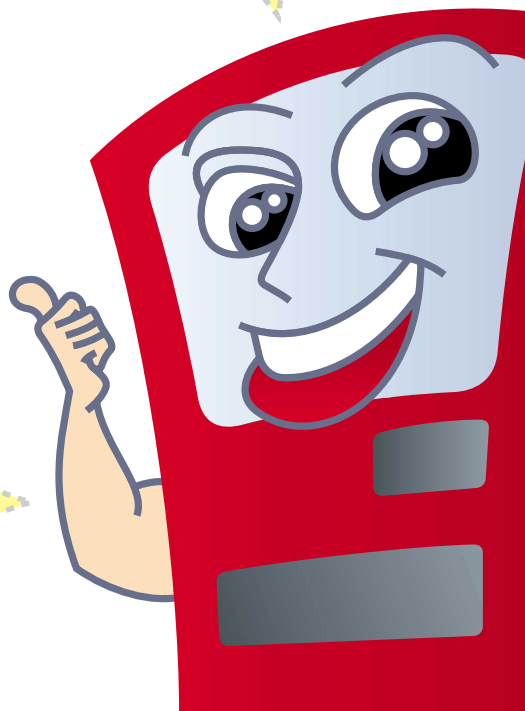
地域の観光名所が一目でわかる地図を掲示することにより、地域の特色や現在地の確認などに役立てていこうという試みを実施しています。

省エネルギーを 推進しています。▶29P参照

環境負荷低減に向けて、自動販売機にかかる電力を削減するため、メーカーと共同開発した省エネルギー型自動販売機を導入しています。

住所表示の ステッカーを 貼付しています。

屋外設置の自動販売機約33,000台に「住所表示」を行うことで、通行人が緊急時に通報する際の場所の特定ができるよう取り組んでいます。



**自動販売機は
リサイクル
されています。**▶27P参照

耐用年数の経過等により廃棄する自動販売機は、金属類を中心に再資源化(リサイクル)を推進しています。

**環境に配慮したノンフロン
自動販売機を導入しています。**

コカ・コーラシステムでは、代替フロン(HFC)を冷媒に使用しないノンフロン型自動販売機の研究開発を進め、2020年までに全面的に切り替えることを目指し段階的に導入を拡大しています。また、知床自然遺産地域内と近隣地域では、景観に配慮した外装のノンフロン自動販売機を設置しています。



**災害時に
お役に立ちます。**▶6P参照

災害発生時に地域のみなさまのお役に立てるように、公共施設などに災害対応型の自動販売機も導入しています。行政と連携して、災害状況や避難情報などを表示したり、遠隔操作によって製品を無料提供する機能も備えています。



お客さまに安全・安心をお届けするために。

すべての工程で品質保証に取り組んでいます。

お客さまに安全で安心していただける製品を提供するために、原材料の受入れから製造・物流・商流など、さわやかなおいしさを提供するためにあらゆる工程において一人ひとりが主体となり、品質保証に取り組んでいます。

原材料の安全性を徹底チェック!

すべての原材料および副資材は、日本コカ・コーラ(株)および当社が高品質かつ安全であることを確認したお取引先から調達しています。原料メーカーから品質保証書の入手や関連法規への適正を確認するだけでなく、コカ・コーラ独自の「規格」を制定・遵守し、安全を保証しています。とくに原材料の安全については現地に出向き、履歴の確認からお取引先の監査までを実施し、品質保証の強化を図っています。

「お取引先から品質保証書の入手や関連法規への適正を確認するだけでなく、コカ・コーラ独自の「規格」を制定・遵守し、安全を保証しています。とくに原材料の安全については現地に出向き、履歴の確認からお取引先の監査までを実施し、品質保証の強化を図っています。」

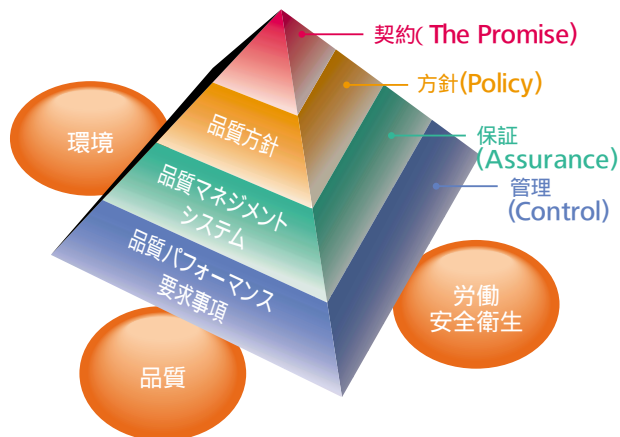


札幌工場

製造部門の取り組み

札幌工場は、コカ・コーラシステム独自の総合品質保証システムである TCCQS (The Coca-Cola Quality System) の運用によって工程管理・監視を行い、製品の安全性を追求するとともに品質の向上を図っています。

TCCQSの構造



TCCQSには、ISO9001(品質マネジメントシステム)、HACCP(危害分析重要管理点方式による管理)、ISO14001(環境マネジメントシステム)、OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)の要求事項が含まれています。

1) 徹底した品質管理

工場では、容器の傷・もれや中味への異物混入などの異常がないかを、最新機器により厳重に検査しています。また、製品が規格・基準を遵守していることの確認を、定期的な測定や官能検査・目視な



品質管理



札幌工場

どでチェックし、すべての作業記録を管理・検証することで、より安全な製品づくりを行っています。

2) 水の品質保証

水源(地下水)の環境を保全し、良好な水質を保っています。また、工場で用いるすべての水について、食品衛生法・水道法をはじめとした全150項目以上の定期的な分析を実施し、その安全性を保証しています。

3) 容器包装の安全性

最先端の分析・評価技術によって、容器包装の安全性を確保しています。工場およびメーカーから納入される容器は「公的機関の分析成績書」を入手し、関連法規への適合を確認するだけでなく、容器包装と中味・環境とのさまざまな関係を分析・評価しています。

さわやかな
おごころには
理由があるんだ。



全社で「ISO9001」の 認証取得へ取り組んでいます。

高品質な製品とサービスを提供し、お客さまや消費者の一層の満足度向上を図るために、当社では2006年1月に品質マネジメントシステムの国際標準規格である「ISO9001」の認証取得へ向け、工場部門にとどまらず全社的に取り組みを開始、2007年度中の認証取得を目指して活動を展開しています。

「わくわく」を、もっと身近に感じてほしい。

ようこそ! 札幌工場へ。

札幌工場で実施している見学ツアーが、より楽しくなりました。ツアーでは、コカ・コーラ社製品の安全性・安心性や、当社の環境保全活動・社会貢献活動についてご案内しています。

製造ラインの見学

当社の「製品ができるまで」を、製造工程パネルと案内員の説明でわかりやすく解説していきます。また、大型立体自動倉庫の迫力ある動きが間近で見学できます。

みなさまこのより身近なコミュニケーションを、
私たちは工場見学ツアーを
実施していきます。みなさまのお越しを
心からお待ちしております。

大型立体自動倉庫

当社の立体自動倉庫は、約2万棚を有する高さ31メートルの倉庫棟と荷さばき棟からなる大型設備です。2002年11月に本格稼働し、約200万ケース収容可能な国内のコカ・コーラボトラー最大規模のスケールを誇っています。



環境保全・社会貢献への取り組み

見学コースでは製造工程のみならず、当社の環境への取り組みや社会貢献活動も理解していただけるようなシステムとなっています。また、希少なクラシック自動販売機も展示されています。



わくわくコミュニケーションルーム

コカ・コーラの歴史パネルやクラシックポスターなどが展示されており、記念撮影や製品の試飲・ビデオ上映などを行う多目的のスペースです。さまざまな展示品により、楽しいコカ・コーラワールドが満喫できます。



札幌工場では、数多くの製品の製造工程を広く公開しています。

ガラス張りの工場は、毎年たくさんの方々が見学を訪れ、「よい社会見学になった」と大変喜ばれています。

見学時には、おいしく冷えたコカ・コーラをお飲みいただき、記念撮影や記念品もご用意しています。みなさまのお越しを心からお待ちしています。

工場見学者数(2005年)

保育園・幼稚園児	1,619人	大学生	256人
小学生	1,817人	一般(団体・個人)	2,190人
中学生	467人	その他	59人
高校生	139人	合計	6,547人



ツアーのご案内 (合計 約60分)

記念撮影
/15分

概要説明・
ビデオ上映/20分

製造工程・立体自動
倉庫見学/25分



記念品



ミニタオル



エコロジーリングノート



キーホルダー



札幌工場 見学のお申し込み方法

工場見学はあらかじめお申し込みが必要です。
直接お電話またはお手紙でご予約ください。

見学できる時間 毎週月曜～金曜日
(午前 10:00～12:00・午後 1:30～4:00 祝祭日も可)
祝祭日は一部休みの日もあります。

所要時間 約60分(ご要望に応じて調整することができます。)

場所 札幌工場 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号

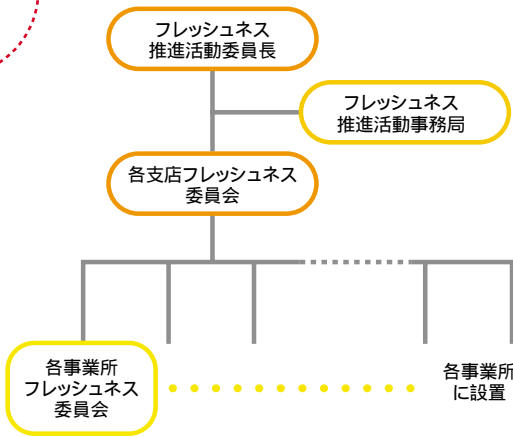
お申し込み・お問い合わせ
011-888-2091(広報部)



お客さまにさわやかさとご満足をお届けするために。

広範なフレッシュネス活動

お客さまにさわやかさとご満足、そして安全と安心をお届けするために、当社では厳しい衛生管理と品質管理に努めています。調達・製造・商流・物流部門および関連会社も含めて「フレッシュネス委員会」を設置し、お客さまのお手元に届くまでの鮮度管理目標を設定するほか、自動販売機内在庫の適正化や缶ウォーマーの温度管理など、安全かつ高品質な製品とサービスの提供に努めています。



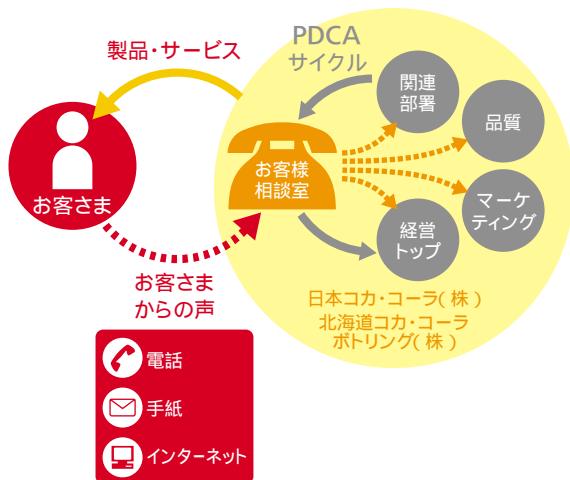
私たちが、いつでも、どこでも、だれにでも、さわやかでおいしいココ・コーラ製品を、お飲みいただけるよう、さまざまな活動を展開しています。



誠意をもってお客さまへの対応

当社の窓口である「お客様相談室」には、さまざまなご指摘・ご提案・お問合せなどが寄せられています。私たちはお客さまからの声を真摯に受けとめることが第一と考え、誠意をもった対応を心がけています。また、お客さまとの双方向コミュニケーションを大切に、安全で安心していただける製品、サービス、情報の提供に努めています。

お客さまから頂戴した「開栓時に勢いよくキャップがはずれた」との貴重なご指摘に対して当社は、即時、検査・分析を実施するとともに、お客さまの安全を第一に考え、万全を期して当該製品を公表して自主回収するほか、再発防止に向け一層の管理体制の強化をはかりました。(2005年12月)

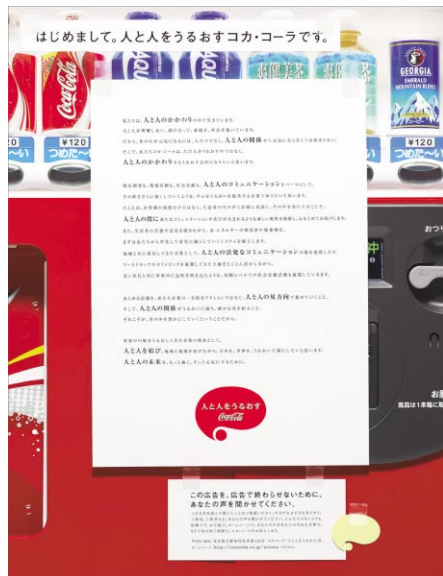


お客様相談室 ☎ 0120-308509 🌐 URL
(土日祝祭日を除く9:30 - 17:00) <http://www.cocacola.co.jp>

企業ブランディング活動を展開

企業ブランディング活動とは、当社を含む
 コカ・コーラシステムが全体でどのような企業
 になりたいかを示し、それに沿って企業として
 の価値と信頼感を高める活動のことです。
 2005年8月、コカ・コーラシステムは企業ス
 ローガン「人と人をうるおす Coca Cola」を

発表しました。私たちは、人と人
 とのコミュニケーションをベース
 にして日々の営業活動を行い、企
 業の社会的責任を果たすととも
 に、すべての人に信頼される企業を
 目指しています。



新聞広告 宣言篇(2005年8月)

新しい企業スローガン「人と人をうるおす
 Coca Cola」のもと、「ただ人をうるおすので
 はなく、人と人のかかわりをもうるおす会社
 になりたい」という私たちの決意を発表しました。



新聞広告 約束篇(2006年1月)

人と人をうるおす10の約束

- 約束1. コカ・コーラ本来の「胸躍る楽しさ」を、変わらずつくり続けます。
- 約束2. 新しい価値を提供する製品をつくります。
- 約束3. 品質管理を徹底します。
- 約束4. 容器は、あつかいやすく、飲みやすくつくります。
- 約束5. ライフサイクルの視点で容器を見直し、リサイクルを促進します。
- 約束6. 自動販売機は、もっと使いやすく、もっと社会の役に立つものにします。
- 約束7. 製品をつくる時からお手元にお届けする時までの、環境への負荷を減らします。
- 約束8. 回収ボックスのメンテナンス、地域の清掃活動を徹底します。
- 約束9. グローバルにも、ローカルにも、社会に貢献します。
- 約束10. 企業として、公正、公平、透明であることを守ります。

風通しが良く達成感のある職場を創造します。

一人ひとりが能力をフルに発揮し、
わくわくできるような
職場へのりを推進しています。

私たちは、社員が
個人として尊重され、
一人ひとりが能力をフルに発揮し、
わくわくできるような
職場へのりを推進しています。



「自立型」の人材育成を目指します。

現在の社会は変化のスピードが速く、かつ複雑化・多様化しており、顧客サービスもお客さま個々のニーズに合わせて柔軟に対応していく必要があります。このような中で求められる社員像は「自ら考え行動し、チャレンジし続ける社員」＝「自立した人材」であり、時代の動きを敏感にキャッチするとともに、地域やお客さまのさまざまな課題を自ら率先して発見し、その解決に向け主体的に行動することのできる人材が求められています。

当社では、このような社員像の形成に向けて、自らのキャリアを主体的に考え、自己の能力開発に積極的に取り組む人材を育成支援するプログラムを提供しています。

資格昇格制度	役割を果たした度合いを基準とした役割資格制度、担当職務の難易度・裁量度・貢献度を基準とした職種区分の2つの処遇区分を設定し、ここに対して評価し、その結果を昇格・昇給・賞与に反映させており、力ある若手を登用しやすい仕組みにしています。
人事考課制度	社員個々人の業務目標を半期単位で設定し、上司と部下で十分な話し合いを行い、客観的で精度の高い目標設定を行います。また、人事考課の結果についても、面接を通じ本人にフィードバックするとともに、今後伸ばしてほしい点、不足している点を具体的にアドバイスすることで、各人の新たな目標が明確になり、能力開発・成長に結びつけていく制度を目指しています。

区分	管理職			監督職	一般職
	役員	本部長職	部長職	課長職	チームリーダー
教育体系図	対応職位				マネージャー アカウンター 係員 新入社員
	階層別	ミラセクティブ ミーティング	部長研修	課長研修 新任管理職者研修	監督職研修
社内集合研修教育訓練	管理		人事考課者研修 財務研修		
	製造			職種別スキルアップ研修 スタッフ研修	
	営業				CWW研修 CWC研修 販売基礎研修 売場創り研修 ACP研修 チームリーダー研修
	共通			企業倫理・CSR・環境教育 通信教育(CAPA) パソコン教育	
社外派遣研修	人材育成研究会 C C B C		SMC研修 MC研修		BMC研修
	研修部 D N P		本部長研修 上級幹部社員研修 営業企画セミナー		

多様性を尊重する企業風土

多様化の進む社会のなかで、高齢者が元気に働くことのできる職場づくりが、そしてハンディをもつ方が伸び伸びと働くことができる職場環境が切実に求められています。

高齢社員の再雇用について

高齢化社会が進むなか、当社では定年後も継続して勤務できる「シニア社員制度」の導入と、老後の安定した収入を確保できる制度を整備しています。

シニア社員制度	2006年4月から定年後も継続して勤務可能な「シニア社員制度」を発足させ、高齢者が持つ知識や技能を活用できる場を提供しています。
企業年金の充実	退職金を全額年金で受給できる企業年金基金制度を整備し、シニア社員制度とともに、老後に対する金銭面での不安感を払拭し、安心して働ける環境をつくっています。

障がい者の雇用について

当社における障がい者の在籍者数は11人(うち重度障がい者4人)、雇用率は1.9%で、法定雇用率(1.8%)に達していますが、私たちはこれからも、ハローワーク等の求人活動を通じて、積極的に障がい者雇用を実現していきます。

安心して働ける職場づくり

休業支援の取り組み

社員の私傷病による休業に備えて、年次有給休暇とは別に「私傷病休暇制度」を設けています。このほか、育児休業制度・介護休業制度・半日年休取得制度などを設け、安心して働ける休業支援体制を実現しています。

安全衛生の取り組み

毎月1回、すべての事業所において「安全衛生部会」を開催するほか、札幌工場において労働安全衛生マネジメントシステムを導入、また年1回安全運転管理者教育を実施するなど、労働安全衛生について積極的な活動を展開しています。

健康管理の取り組み

年1回の健康診断をはじめ、30歳以上の社員を対象にした生活習慣病予防検診、歯科検診と保健師による巡回健康指導、そして健康診断と生活実態に基づくヘルスアセスメントを実施し、社員一人ひとりの健康保持・増進を図っています。

腰痛予防の取り組み

スポーツ医学に基づく腰痛予防体操をはじめ、年2回のスクリーニングテスト、年1回の体力測定と巡回指導などを実施し、社員の腰痛予防に積極的に取り組んでいます。

企業としての信頼性を高めるために。

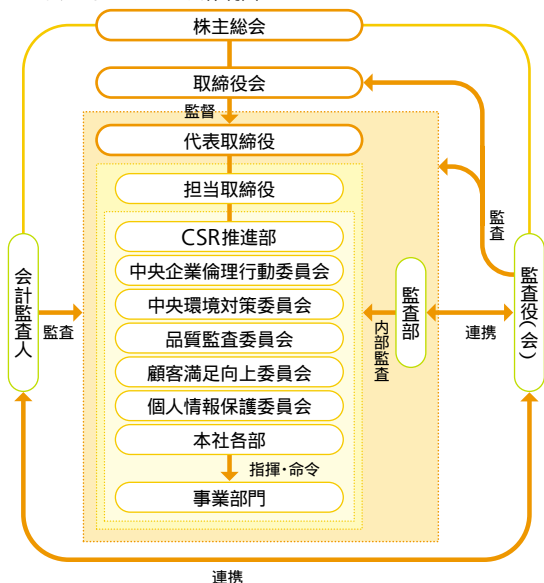
コーポレート・ガバナンス

企業倫理とコンプライアンスの重要性を認識し、企業の社会的責任（CSR）を果たすことを経営上の最も重要な課題の一つと位置づけており、このことが企業価値の向上に不可欠であると認識しています。その実現のために、当社は経営の透明性と効率性の向上を通じて、すべての生活者やパートナーにとっての企業価値の最大化を図るため、コーポレートガバナンス体制を図のとおり構築しました。

私たちは企業組織としてのモデルを向上し、地域のみならず全国に信頼される企業となることを目指します。



コーポレート・ガバナンス体制図



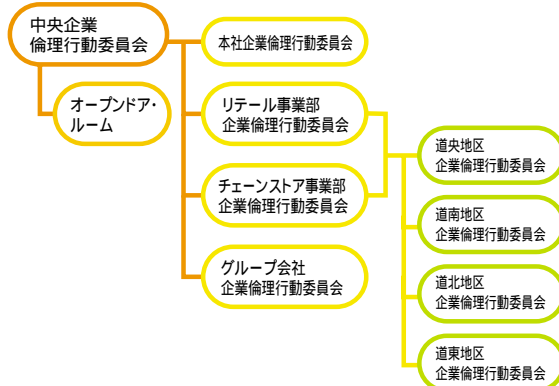
企業倫理活動への取り組み

(法および社会倫理の遵守)

私たちが、生活者やパートナーからの信頼を獲得し続けるには、日々多様化するニーズを的確に把握して「さわやかさと潤い」を追求し、そのために必要な自己変革を積極的に実践するとともに、良き企業市民として法や社会倫理を遵守した行動が不可欠であると考えます。このため、当社では1999年に企業倫理行動委員会を設置し、定期的な自主点検活動とフォローアップおよび企業倫理教育・啓蒙の実施を行っています。

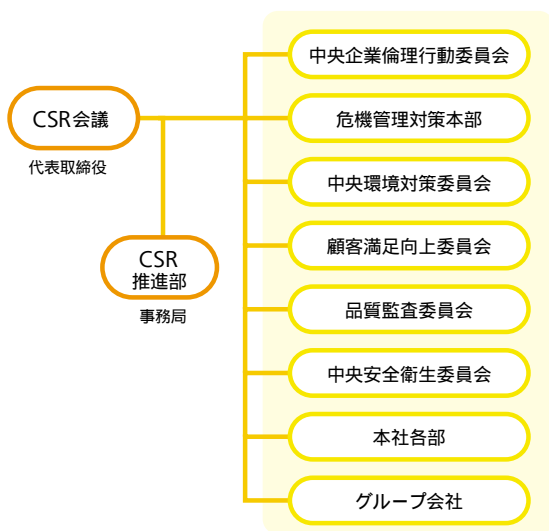
オーブンドア・ルーム

社員が上長などに相談しにくい場合の相談窓口として「オーブンドア・ルーム」を開設し、相談体制の充実を図っています。オーブンドア・ルームへ相談した社員が組織内で不利益を被ることのないよう、相談者の匿名性の確保と相談内容の機密保持には万全を期しています。



CSR推進部の設置

2005年10月に「CSR推進室」(現「CSR推進部」)を設置し、CSR経営への全社的な取り組みをスタートしました。CSR経営を推進するうえでの現状分析と課題抽出に取り組み、地域に貢献する企業として「あたりまえのこと」を「あたりまえに」できるよう、これまでの諸活動をCSR的視点で整理・検討するとともに、グループ全体で横断的に取り組んでいきます。



個人情報の保護について

お客さま・お取引先さまをはじめとする個人情報の重要性を認識し、2005年4月に完全施行された個人情報保護法を遵守するため、個人情報保護ポリシーおよび個人情報保護規程を制定するとともに、個人情報保護委員会を設置し、社員教育やITセキュリティの強化など個人情報の保護にグループ全体で取り組んでいます。

ポリシー

個人情報保護ポリシー(当社ホームページに記載)

人事個人情報保護ポリシー

規程

個人情報保護規程

ガイドライン

個人情報取扱ガイドライン

株主個人情報管理ガイドライン

個人情報に関するご指摘事項対応ガイドライン

個人情報開示等請求対応ガイドライン

製品ご指摘事項に関する個人情報保護ガイドライン

キャンペーン個人情報管理ガイドライン

パソコン利用に関するガイドライン

人事個人情報管理ガイドライン

地域社会を活性化する多彩な活動を応援しています。

教育支援活動

国際性豊かな青少年を育てるために、国際語である英語の普及を推進する「高円宮杯 全日本中学校英語弁論大会」をはじめ、経済的理由で大学進学が困難な学生に奨学金を支給する事業である「日本コカ・コーラボトラーズ育英会」の北海道支部として、毎年2名の奨学生を選定するなど、さまざまな教育支援活動を続けています。

スポーツ支援活動

札幌市内の児童を対象に、サッカーを通して環境保全活動に楽しく取り組んでもらうイベント「かんきょうみらいカップ」を応援するほか、社団法人日本一輪車協会への支援活動や全国高等学校総合体育大会への協賛など、スポーツを通じた心身の健全な育成活動を支援しています。

私たちは
企業市民として、
教育やスポーツ、地域活動を
もっとも応援して
きました。これからも。



旭川市の中学生が表彰された英語弁論大会



かんきょうみらいカップ2005



真夏の祭典「高校総体」



さわやか一輪車競技大会



さまざまなスポーツ大会を支援

日本コカ・コーラボトラーズ育英会は
経済上の理由だけで
大学への進学をあきらめて
いる方を援助します。

●奨学金
●奨学金の申請方法
●奨学金の申請時期
●奨学金の申請書類
●奨学金の申請方法

奨学金募集ポスター
平成28年度

奨学生募集ポスター

地場企業・地域イベント支援

2003年より北海道のプロサッカーチーム「コンサドーレ札幌」とスポンサー契約を結ぶほか、コンサドーレマーク入り自動販売機(ドーレBOX)を設置して、その売上金の一部を北海道フットボールクラブの運営費用として協賛しています。また、冬の北海道を代表するイベント「さっぽろ雪まつり」への協賛をはじめ、夏の札幌を華やかに彩る「YOSAKOIソーラン祭り」に発足時よりオフィシャルスポンサーとして応援するとともに、地元の札幌国際大学と共同し「コカ・コーラ札幌国際大学」チームとして参加するなど、地域に密着した多彩な活動を展開しています。



コンサドーレ札幌



ドーレBOX



さっぽろ雪まつり会場風景



YOSAKOIソーラン祭り
「コカ・コーラ札幌国際大学」チーム

安全運行への取り組み

幸楽輸送、全事業所で「Gマーク」を取得!

グループ会社の幸楽輸送(株)では、安全性優良事業所の認定である「Gマーク」を全事業所で取得しました。Gマークとは、社団法人全日本トラック協会が認定している制度で、利用者がより安全性の高い事業者を選びやすくするとともに、事業者全体の安全性の向上に対する意識を高めることを目的としています。同社では、事業所や車両に「安全性優良事業所」の認定マークやステッカーを掲示して、お客さまに向けて積極的に安全運行をPRしています。



北海道の交通事故死全国ワーストワン返上に寄与

当社では、社員一人ひとりが日々安全運転に努めていますが、地域社会においても角野専務が札幌地方安全運転管理者事業主会豊平支部長として活動するなど、交通安全活動に積極的に参加しています。このたび同支部の活動が交通事故死の大幅減少に寄与したと評価され、北海道札幌方面豊平警察署より感謝状が贈られました。



さまざまな貢献活動

パキスタン地震への寄付金活動をはじめ、1980年から「全肢連」(社団法人全国肢体不自由児者・父母の会連合会)に対する支援活動、また1968年から年末に福祉施設への製品寄贈活動を継続して実施するなど、さまざまな社会貢献活動を展開しています。



福祉施設への寄贈

八雲営業所が警察より表彰されました。

当社八雲営業所では、地域のみなさまの安全に役立てようと防犯協会と共同し、地域の自動販売機に防犯を呼びかけるポスターを貼付しました。だれもが身近に利用する自動販売機を活用し、企業のイメージアップだけでなく、地域社会への貢献を目的とした活動が高く評価され、八雲警察署および防犯協会から表彰を受けました。



国際交流に特別協賛

毎年夏休みの4日間、北海道新聞社主催の「北海道青少年国際交流プログラム」(International Youth Exchange in Hokkaido: 略称IYE)が開催されています。IYEとは、アメリカ・中国・タイなど海外9カ国の青少年と道内の中学生が交流し、友情を深めることを目的とした国際交流活動です。当社は、このIYEの特別協賛企業として、コカ・コーラステージでのパフォーマンスや札幌工場の見学などを実施しています。



地域の環境活動に参加しています。

コカ・コーラ環境教育財団

コカ・コーラ環境教育財団は、コカ・コーラシステムの「企業市民として地域に貢献する」という企業理念を環境教育・環境保全の分野で実践するために設立されました。1994年の設立以来、毎年環境関連分野に携わる人びとへの啓発・支援活動を行っています。

なお、北海道からは1995年に「釧路市立柏木小学校」、1997年に自然愛好グループ「ヨシキリの会」、2002年に「士幌なまくら会」、2003年に羽幌町「寺子屋塾」、2004年に「北海道伊達高等養護学校」などが、それぞれコカ・コーラ環境教育賞を受賞しています。



釧路市立柏木小学校は2003年にも「環境教育賞記念賞」を受賞し、作家倉本聰さんが同校を訪れ環境教育体験学習を行いました。

環境イベントへの出展

「環境広場さっぽろ」などの環境イベントへの出展をはじめ、各地で開催される環境シンポジウム等に積極的に参加し、社会との対話を活発に行っています。また、事業者・企業市民として実施している環境保全活動を紹介する一方、ご来場者からいただいた貴重なご意見・ご提案を諸活動に生かしています。



「環境広場さっぽろ」への出展風景

環境美化活動

安全衛生活動の一環として、社員による各事業所周辺の清掃ボランティア活動を毎月実施しています。



事業所周辺の美化活動

私たちは「環境」をテーマにした地域とのさまざまな交流を通して、地域の環境活動に参加しています。



地球環境の明日を見つめて。

環境への取り組み

当社の環境理念・環境行動指針をより積極的に実践するために、2003年より「eKOシステム」を本社・札幌工場で、2005年からは営業部門で運用を開始しました。eKOシステムとは、環境マネジメントシステムの国際標準規格であるISO14001や英国の規格であるBS7750等を参考に、コカ・コーラシステムのために設計された独自のシステムです。これは図のように「5つのポリシー」のもと推進します。

北海道の美しい自然を愛する企業市民として、独自の環境マネジメントシステムで環境経営を実現していきます。

環境理念

北海道コカ・コーラボトリング株式会社は、責任ある企業市民として、地球環境の保全に配慮した企業活動を行い、地域社会の豊かな環境の維持と社会の継続的な発展に貢献します。

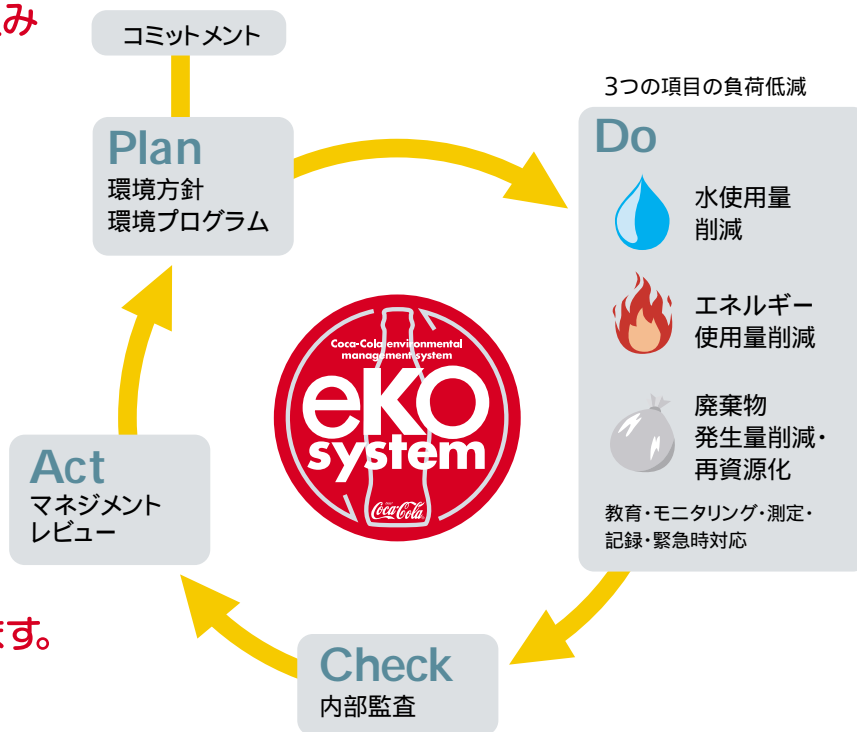


環境行動指針

1. 環境関連法規、規制、条例、地方自治体との協定を遵守します。
2. 企業活動に伴う廃棄物の削減と再資源化を促進します。
3. 省エネルギー、省資源に努め、環境負荷を低減します。
4. 環境に配慮した物品の購入(グリーン購入)を促進します。
5. 飲料容器の散乱防止の啓蒙活動を行うとともに、地域社会の環境美化活動を支援します。
6. 環境保全に対する全社員の意識向上を図り、全社を挙げて環境保全活動に取り組みます。

「PDCAサイクル」の仕組み

eKOシステムは、コカ・コーラシステムの環境理念と環境方針のほか、eKOシステムの要求事項等を規定した「eKOスタンダード」を中心として構成されており、環境方針に基づいた業務活動の「Plan(計画)-Do(実行)-Check(点検)-Act(見直し)」をひとつのサイクルとして、これを繰り返し行うことで継続的に環境パフォーマンスを向上していく仕組みとなっています。



eKOシステムで3つの負荷低減を目指します。

eKOシステムでは、清涼飲料業界の主な環境負荷である3つの項目を中心に、さまざまな環境改善プログラムを実施します。

eKOの名前の由来:
 ニューヨーク証券取引所におけるザ・コカ・コーラカンパニーの呼称
 “KO”に“environment(環境)”の頭文字を組み合わせて名づけました。

生産からリサイクルまでの流れ [事業プロセスごとの環境負荷]

事業プロセスごとの「投入量」
 (INPUT)と「排出量」(OUTPUT)を
 集計・分析し、その結果を改善の
 環境に負荷を与えないかを把握
 して、積極的な環境保全活動を行っています。



製造

INPUT

水	1,139 千m ³
電気	15,042 千kWh
灯油	1.4 kℓ
天然ガス	4,462 千m ³
原材料	47,948 t

製品をつくる水、原材料、
 生産ラインを稼働させる電力
 などのエネルギー

物流

INPUT



ガソリン	370 kℓ
軽油	3,594 kℓ
天然ガス	2.4 千m ³
LPG	0.5 千m ³




製品を運ぶ車両
 などが使用する
 エネルギー

生産 (171千kℓ)



物流




OUTPUT

	水	969 千m ³
	CO ₂	14,996 t
	NO _x	5.3 t



廃棄物 4,942 t

OUTPUT

	CO ₂	10,277 t
	NO _x	68.8 t
	SO _x	3.1 t

ゼロエミッション(リサイクル率100%)

備考:CO₂は電力・燃料より、NO_x・SO_xは燃料より、それぞれ環境省の排出係数を用いて算出しています。



びん・缶・ペットボトルのリサイクル

管理・営業

INPUT

水	17 千m ³
電気	5,025 千kWh
灯油	487 kℓ
重油	368 kℓ
天然ガス	78 千m ³
LPG	0.1 千m ³

事業所、オフィスが
使用する
エネルギー

お客さまによる消費

INPUT



電気 149,500 千kWh

自動販売機が
使用するエネルギー
1台あたりの年間電力使用量を
2,300kWhとして算出

空容器回収

INPUT



物流(左頁)にまとめて
集計しています

空容器回収に関わる車両
が使用するエネルギー



管理・営業

OUTPUT

水	17 千m ³
CO ₂	4,273 t
NO _x	1.7 t
SO _x	3.2 t

自動販売機

OUTPUT

CO₂ 56,511 t
(発電に伴う排出)

リサイクル

OUTPUT

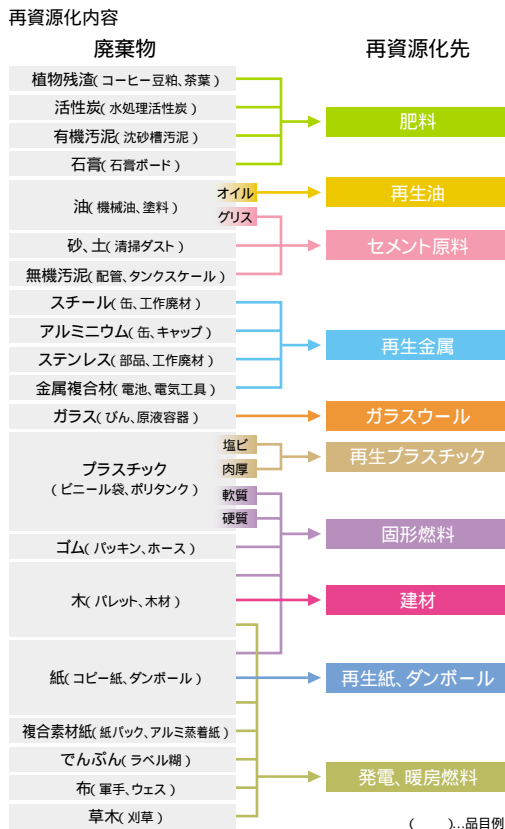
物流(左頁)にまとめて
集計しています

リサイクルによる環境保全活動

札幌工場で「ゼロエミッション」を達成

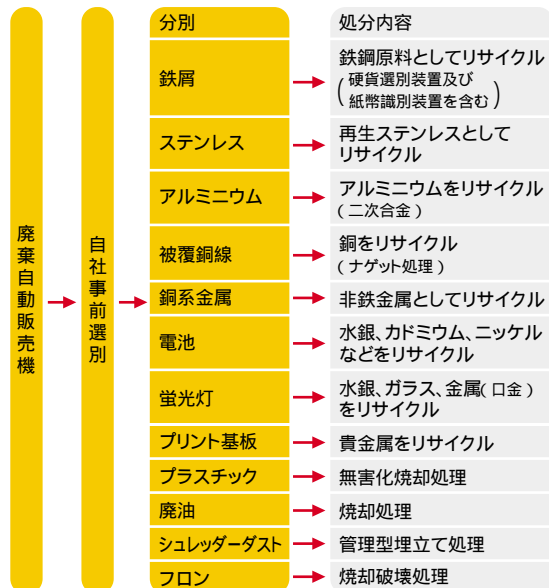
札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単純焼却処理を一掃し、すべてを再資源化する「ゼロエミッション」活動に取り組み、2001年11月末時点で目標を100%達成しました。今後も、排出される廃棄物をすべて再資源化する活動を継続していきます。

私たちは廃棄物の再資源化をはじめ、空容器の回収や自動販売機のリサイクルなどを通して、環境負荷の少ない循環型社会の実現をめざします。



自動販売機のリサイクル

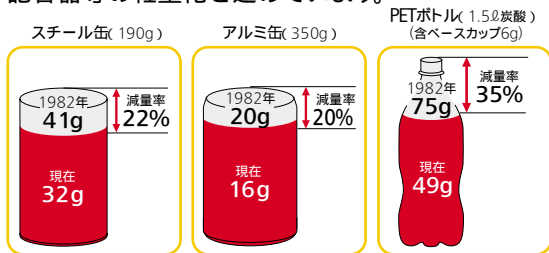
2005年度に耐用年数の経過等により廃棄した自動販売機は、約6,000台です。廃棄する自動販売機は、金属・非金属などに分別され、資源化・埋立て・焼却などの処分を受けます(下図を参照)。この結果、現時点では金属類を中心に自動販売機の85%~90%がリサイクルされていますが、今後は再資源化技術の進展により、このリサイクル率はさらに向上していくものと考えます。



フロンへの対応
2001年から施行された「フロン回収破壊法」により、フロン類等の自社内回収を開始しました。現在、新規自動販売機に冷媒として使用されているのは塩素原子を含まない新代替フロン(オゾン層破壊係数ゼロ)です。

容器の軽量化とリサイクル

コカ・コーラシステムでは省資源化を目指して、下記容器等の軽量化を進めています。



回収された空容器は「材質表示マーク」によってリサイクルが推進され、2004年度のリサイクル率は次の通りとなっています。

スチール缶	87.1%	スチール缶リサイクル協会
アルミ缶	86.1%	アルミ缶リサイクル協会
PETボトル	62.3%	PETボトルリサイクル推進協議会
ガラスびん カレット利用率	90.7%	ガラスびんリサイクル推進協議会

紙カップのリサイクル推進

2000年9月、カップ自動販売機で使用済みとなった紙カップを回収ルートを通してトイレトーパーに再生し、それを本社で使用するリサイクルルートを確認しました。

再生品の使用促進 [グリーン調達・グリーン購入]

当社のユニホームには、PET再生繊維(ポリエステル)を53%使用しています。

空容器回収ボックスは、PET・PE・PPなどの再生プラスチックで作成されています。

2000年より、パソコンプリンターに使用するトナーカートリッジの再生・再利用に取り組んでいます。この再生品は3～5回のリサイクルが可能であり、新品と比較するとライフサイクルでCO₂の発生量が30%程度削減できると試算されています。

文具・事務用品および名刺には、再生品などの環境面に優れた製品を積極的に購入しています。



リサイクルユニフォーム

北海道のきれいな空気と水を求めて。

北海道のきれいな「空気」を守るために

1) 省エネ自動販売機の導入

蛍光灯の調光機能をはじめ、夏場の電力消費ピーク時に電気の使用をカットする「ピークカット機能」や冷却効率を大幅に向上させた省エネ自動販売機(エコベンダー)を積極的に導入し、現在は稼働台数の約90%を占めています。また、廃棄される自動販売機はフロンを自社で回収するなど、適正に処理しています。

2) エコドライブの推進

物流車両から排出される二酸化炭素(CO₂)、粒子物質(PM)、窒素酸化物(NO_x)などの汚染物質の削減に向けて、当社グループ全体でエコドライブの推進および車両燃料の削減に取り組んでいます。

走行距離の短縮

1. 配送ルートの最短設定
2. 計画的、効率的な車両使用

車両維持管理

1. 日常自主点検の強化
 2. 3ヶ月点検(専門業者)の強化
- エンジンの始動具合、異音、排気状態の点検やタイヤ空気圧の適正チェックなど

経済運転

1. アイドリング・ストップの徹底
2. 安定(等速)走行の励行
急加速減速運転防止
3. 最高速度の抑制



人が生きるうえで「空気」と「水」は必要不可欠な資源です。
今、このかけがえのない資源を大切に使用し、環境への負荷を少なくするために求められています。

3) クリーンエネルギー車の導入

地球環境の保全に貢献するクリーンエネルギー車を導入し、採用の拡大に向けて性能等の確認を行っています。LPG車・ハイブリッド車・天然ガス車など、いずれも二酸化炭素・窒素酸化物・粒子物質等の大幅な排出削減が期待されています。

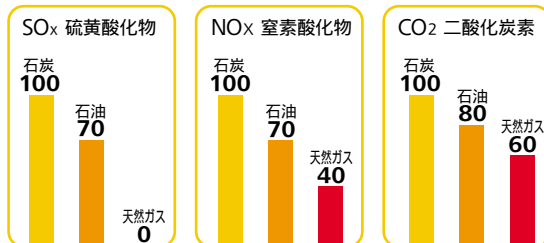


ハイブリッド車

LPG車	1998年6月より導入	5台
ハイブリッド車	2000年2月より導入	3台
天然ガス(CNG)車	2001年6月より導入	1台

4) ボイラー燃料に「天然ガス」を使用

地球温暖化防止など、当社の環境対策の一環として、札幌工場のボイラー燃料をA重油から不純物を含まないクリーンな「天然ガス」に切り替えました。既存の設備を改造し、2002年3月からすべての生産設備ボイラーで天然ガスを使用しています。これによりCO₂の排出量は約30%、NO_xは約40%削減され、SO_xは排出ゼロとなりました。



5) ペットボトルの自社成形による輸送量の軽減

製品に使用するPETボトルは、従来、ボトルメーカーで成形されたものを札幌工場まで輸送していましたが、2002年に新設されたアセプティックラインのボトル成形機の稼動によって、自社で主に500mℓ以下のPETボトル製品を中心にプリフォーム(PETボトルの原型)

からの成形が可能に

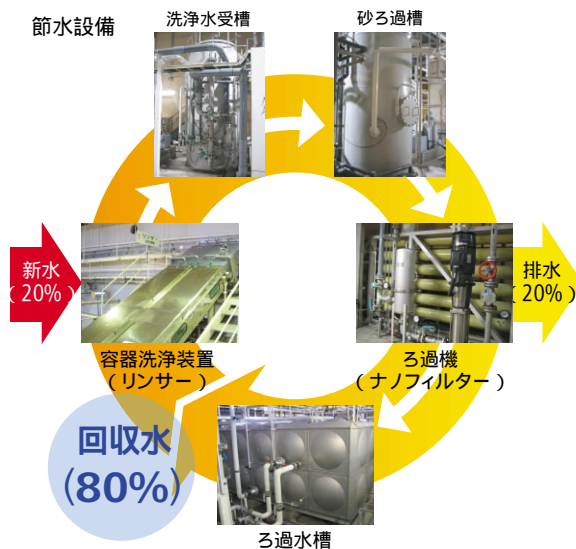
なりました。この結果、約8分の1の容積での輸送が可能となり、大気への環境負荷が大幅に削減されました。



北海道のきれいな「水」を守るために

1) 水使用量の削減

当社にとって水は最も重要な原材料であり、また貴重な資源です。札幌工場では2003年、容器の洗浄水、製品の殺菌工程からの回収水、アセプティックPETラインのユーティリティ冷却水などを循環利用するために節水設備(図参照)を導入しました。これにより、約2,700トン/日(20時間稼動時)の節水が可能になりました。



2) 工場排水処理

札幌工場では、排水を処理施設にて処理したのち、国の排水基準を遵守していることを確認し河川へ放流します(一部は公共下水道を使用)。この排水処理システムは「ラグーン処理方式」と呼ばれるもので、自然界における微生物の自己浄化サイクルを利用しています。



効果的な環境保全活動を継続しています。

環境会計(2005年)

2005年度における当社環境保全活動の結果を環境会計(環境省ガイドライン準拠)で表わしました。環境保全コストは約2億5千万円で、前年と比較すると約5千7百万円減少しています。この減少分は容器包装リサイクル法の再商品化委託費の支払がコカ・コーラナショナルピバレッジ(株)

へ移り、2005年は計上していないためです。環境保全効果は、総エネルギー使用量の減少、車両運行の効率化により大気への環境負荷を減少できました。今後も環境への負荷を低減するため、効果的な環境保全活動を継続します。

環境保全活動に係わるコスト
および効果を把握し、
環境保全活動を効果的に推進してきます。



環境保全コスト

単位:千円

項目	主な取り組みの内容	投資額	費用額
1. 事業エリア内コスト	計	46,600	147,913
(1) 公害防止コスト	工場廃水処理		10,512
	下水道料		25,625
	札幌工場排水処理装置	46,600	4,800
(2) 地球環境保全コスト	札幌工場節水設備		40,120
	札幌工場ボイラーの天然ガス化、省エネルギー装置		3,091
	天然ガス車導入		876
	自動販売機のフロン回収・破壊		19,421
(3) 資源循環コスト	各事業所(本社、工場、支店)廃棄物の処理・再資源化		35,145
	自動販売機の処理・再資源化		8,323
2. 上・下流コスト	計		79,263
	空容器の回収、リサイクル委託費		35,023
	賞味期限切れ製品回収		102
	空容器回収ボックス		5,942
	ポリ袋(空容器回収用)		38,196
	再商品化委託費(容器包装リサイクル法)		—
3. 管理活動コスト	計		18,561
	環境管理組織及び環境負荷の監視・測定に係わる人件費		18,186
	eKOシステム構築・運用費		102
	環境コミュニケーション		82
	環境負荷の測定委託(煤煙・騒音・振動・悪臭)		191
4. 社会活動コスト	計		4,373
	業界団体活動		1,931
	環境支援活動		200
	大気汚染負荷量賦課金		1,138
	本社構内緑化保守		1,104
	合計	46,600	250,110

効果1 環境保全効果(物量単位)

項目		単位	2004年実績	2005年実績	削減率(%)	
エネルギー	総エネルギー使用量(原油換算)	kℓ	15,175	14,395	5.1	
水	井水使用量	千m ³	1,201	1,141	5.0	
	上水使用量	千m ³	21	15	28.6	
大気	燃焼設備	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	19,765	19,269	2.5
		NO _x 排出量	t	7.8	7.0	10.3
		SO _x 排出量	t	7.3	3.2	56.2
	車両	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	12,282	10,277	16.3
		NO _x 排出量	t	82.7	68.8	16.8
		SO _x 排出量	t	4.0	3.1	22.5
水域	工場廃水	COD排出量	t	11.4	10.4	8.8
		BOD排出量	t	4.0	1.4	65.0
廃棄物	総発生量	t	8,884	8,547	3.8	

備考(1)CO₂、NO_x、SO_x排出量及びエネルギー使用量(原油換算)は環境省の排出係数を用いて算出しています。

(2)販売数量比(2005/2004) = 0.987

(3)生産数量比(2005/2004) = 0.920

効果2 環境保全対策に伴う経済効果(貨幣単位)

内容	金額(千円)
リサイクルにより得られた有価物の売却額 (自動販売機筐体、缶、プラスチック、コーヒー豆粕等)	21,996

北海道コカ・コーラボトリングのプロフィールです。

沿革

1963年 1月	北海道飲料株式会社として設立	1983年 4月	コカ・コーラ1.5ℓサイズの販売を開始
3月	コカ・コーラおよびファンタの販売を開始	5月	スポーツ飲料アクエリアスの販売を開始
9月	商号を北海道コカ・コーラボトリング株式会社に改称	1988年 10月	本社ビル竣工(創立25周年記念事業)
12月	本社工場竣工(製品第1号誕生)	1991年 4月	カナダドライジンジャーエールの販売を開始
1965年 10月	コカ・コーラ250ml缶の販売を開始	1992年 3月	ティー飲料紅茶花伝の販売を開始
1966年 4月	コカ・コーラホームサイズ(500ml)の販売を開始	1994年 3月	ティー飲料爽健美茶の販売を開始
1967年 12月	本社工場に第2ラインを増設	1996年 12月	旭川工場を廃止し本社工場に統合
1969年 4月	帯広工場竣工(河東郡音更町)	1998年 3月	ティー飲料煌の販売を開始
1970年 3月	本社工場に第3ラインを増設	1999年 5月	創業以来10億ケースの販売を達成
1971年 5月	本社工場に第4ラインを増設	7月	ダイエットコカ・コーラの販売を開始
10月	スプライトの販売を開始	11月	果汁飲料Qoo(クー)の販売を開始
1972年 2月	コカ・コーラ350ml缶の販売を開始 第11回冬季オリンピック札幌大会に全面協賛、支援	2001年 6月	紙パック製品(プリパック)の販売を開始
11月	本社工場に缶ラインを増設し、缶製品の自社生産を開始	2002年 1月	本社工場第2ラインを廃止
1973年 4月	東北満庵株式会社と合併、株式の額面金額を変更	5月	日韓共催のサッカーワールドカップに全面協賛、支援
8月	株式を東京証券取引所市場第2部および札幌証券取引所に上場	11月	本社工場に立体自動倉庫を新設
1976年 4月	ジョージアコーヒーの販売を開始	2003年 1月	本社工場に無菌充填ラインを増設
1977年 6月	コカ・コーラ1ℓサイズの販売を開始	2004年 12月	帯広工場を本社工場に統合
1979年 11月	旭川工場竣工	2005年 1月	調達・製造・物流の一元化をはかる「コカ・コーラ ナショナルビバレッジ株式会社」が本格稼働 本社工場を札幌工場に名称変更
1982年 4月	栄養飲料リアルゴールドの販売を開始	3月	札幌工場リニューアル
		6月	ティー飲料-(はじめ)の販売を開始
		2006年 3月	コカ・コーラ社製品の製造を行う「北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社」を設立

これまでも、これからも、私たちは北の大地の人びとをつるおす、
さまざまな事業活動を展開していきます。



会社の概要

商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役社長 北島 義俊 代表取締役専務 角野 中原 代表取締役常務 松本 肇
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL(011)888-2001(総務部)
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	703名(グループ1,326名)
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造 および販売並びに食品等の販売
事業所	本社、札幌工場、支店(5)、営業拠点(31)
決算期日	毎年12月31日(年1回)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部 札幌証券取引所

グループ会社の概要

幸楽輸送株式会社	コカ・コーラ社製品の工場・営業所間の輸送、 一般貨物輸送、倉庫業
北海道飲料株式会社	ミネラルウォーター他清涼飲料の製造
北海道サービス株式会社	一般事務処理業務、CD・ビデオの販売・賃貸、 書籍等の販売、クリーニング業、清掃業等
北海道ベンディング株式会社	自動販売機のオペレーション業務
北海道マシンメンテナンス株式会社	各種自動販売機の修理、 設置及び撤去
北海道ピバレッジサービス株式会社	自動販売機による飲食食品等の 販売
北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社	コカ・コーラ社製品の製造、 飲料水容器の製造

編集方針

「北海道コカ・コーラボトリング株式会社CSRレポート2006」は、当社グループのCSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)に対する取り組みをわかりやすく開示し、ステークホルダー(利害関係者)のみなさまからご意見をいただき、北海道の明るい未来を形づくる持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

本レポートは、環境省「環境報告書ガイドライン(2003年版)」とGR(Global Reporting Initiative)の「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」を参考にしました。

[対象期間]

2005年1月1日～2005年12月31日。実績データは2005年度、活動内容の一部は2006年度も含まれます。

[対象組織]

原則的にグループ連結会社が対象です(「グループ会社の概要」参照)

[ご意見・ご感想]

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、本レポートをお読みいただいたみなさまのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

作成部署・連絡先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社
〒004-8588
札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135[CSR推進部]
ホームページアドレス
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

ボクはクマゲラ。
体長50cmにもなる日本最大のキツツキ。
シマフクロウとならんで北海道を象徴する
森の鳥なんだよ。
ボクが暮らすには食べ物が豊富にある
広大な森林が必要で、
豊かな自然の証ともいえるんだ。
この報告書では、
北海道コカ・コーラボトリングの想いを伝える
ナビゲーターとして活躍してるよ。



古紙配合率 100%再生紙を使用しています



本レポートは、環境に配慮し、再生紙と大豆油インキを使用しています。

2006年9月発行

次回は2007年6月の発行予定です。

COCA-COLA、コカ・コーラ、GEORGIA、ジョージアは The Coca-Cola Companyの商標です。

「北海道コカ・コーラボトリング株式会社CSRレポート2006」をお読みいただき誠にありがとうございます。
今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、みなさまのご意見・ご感想を、FAXまたは郵送にてお寄せいただければ幸いです。

に印をおつけください。

- Q1** このレポートについての評価をお聞かせください。
- | | | | |
|---------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ●内容の充実度 | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 不足している |
| ●情報量 | <input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 少なすぎる |
| ●読みやすさ、わかりやすさ | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |
| ●デザイン | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |

- Q2** 特に興味を持たれた内容がありましたか？ (いくつでも)
- [トップメッセージ] みなさまとの「対話」とおして。
 [プロローグ] 「わくわく胸躍る楽しさ」とともに。
 [最新トピックス] いまも取り組みを広げています。
 [ダイジェスト] 活躍しています、街角の自動販売機。
- [お客さまの満足] お客さまに安全・安心をお届けするために。
 「わくわく」を、もっと身近に感じてほしい。
 お客さまにさわやかさとご満足をお届けするために。
- [社員との対話] 風通しが良く達成感のある職場を創造します。
 [企業スタンス] 企業としての信頼性を高めるために。
 [地域社会への貢献] 地域社会を活性化する多彩な活動を応援しています。
 地域の環境活動に参加しています。
 [地球環境への取り組み] 地球環境の明日を見つめて。
 生産からリサイクルまでの流れ [事業プロセスごとの環境負荷]
 リサイクルによる環境保全活動
 北海道のきれいな空気と水を求めて。
 効果的な環境保全活動を継続しています。 [環境会計2005]
- [エピローグ] 北海道コカ・コーラボトリングのプロフィールです。

- Q3** どのようなお立場でお読みになりましたか？
- | | | |
|--|---|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> お客さま | <input type="checkbox"/> お取引先 | <input type="checkbox"/> 株主・投資家 |
| <input type="checkbox"/> 企業・団体のCSRご担当者 | <input type="checkbox"/> 行政関係 | <input type="checkbox"/> NGO/NPO |
| <input type="checkbox"/> 当社グループ社員・家族 | <input type="checkbox"/> 当社グループの事業所近隣の方 | <input type="checkbox"/> 学生 |
| <input type="checkbox"/> 研究・教育機関 | <input type="checkbox"/> 報道関係 | |
| <input type="checkbox"/> その他() | | |

Q4 その他、ご意見・ご感想などご自由にご記入ください。

◆ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記もご記入ください。

- 性別/ 男性 年齢/ 16歳未満 16～20歳 21～25歳 26～30歳 31～40歳
 女性 41～50歳 51～60歳 61～70歳 71歳以上

アンケート送付先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 CSR推進部
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL (011)888-2135 FAX (011)883-0249



011-883-0249

